

構想力の分解

karinomaki

想像

私達はあらゆることを想像しながら生きています。これを、大まかに、カントは「構想」と言っています。しかし、この、構想力には盲点があります。それは、「生きていること」「狂気」への恐ろしさです。

気は狂ったことのある人、そして精神科医の先生だけにわかる世界があります。その世界は虚ろな世界です。この、「虚ろ」が恐ろしくて、人は無意識に逃げています。そして、享樂にふけったり、一人で過ごすのをさげまくったりして生きているのです。

構想のプラス

構想には、組み立てるといふ、プラスの意味もあります。カントはどうしてこの言葉に二つの意味を持たせたのでしょうか。

一つには、襲いかかる孤独から逃れて、人生を構築する、という意味があります。そして、もう一つは、狂うということからの回避です。

私は統合失調症です。完全に気が狂ったことがあります。しかし、そのとき、世界は地獄であると同時に、天国でもありました。

天と地の、両方を直視しないといけないのが、狂気なのです。

カントは、それを心のどこかで知っていました。そして、構想と言う、前向きな言葉で狂気と戦おうとしました。

しかし、これに、同時にふたをしようとしたことも事実です。このことは、黒崎政男先生の、「カント『純粹理性批判』入門」で書かれています。

私が、構想力を、狂気と思う理由・・・それは、天と地を突き抜けるとき、すなわち気が狂ってしまうと気、無間地獄を見てしまうからなのです。全てを統べる力として、カントは構想力について言及していますが、それはとてつもなく恐ろしい世界をカントはなんとなく知りながらしているのです。

だからふたをせずにいられなかったのですね。

地獄

精神病にかかった人は、ほぼ半数以上が地獄を知っていると思います。それは、精神が弱いからではありません。逆に、強いのかも知れないのです。世の中からは社会的弱者と差別されますが、精神病から立ち直ったとき、今までと違う別世界にいます。それは、天と地のはざままで、何にもすがらずに立っているという、強さの世界です。私は主治医の先生の素晴らしい治療を受けたので、今そこに立っています。

しかし、地獄がある・・・と思うことから逃げてはいけません。差別や偏見をした人は間違いなくそこへ行ってしまうのです。

安らぎ

カントは死後、天国へ行ったのでしょうか。私はそうではないと思います。死ぬほどの苦しみを経験しないと本当の哲学者にはなれないと知った彼は、自ら地獄へ落ちて行った人だと思います。

しかし、きっと安らぎがありました。きっとカントの行った地獄には、心優しい、一緒に落ちてくれた友人がいたでしょう。天上の美しい音楽も聞こえていたでしょう。

私にも、安らぎができました。優しい友達、大好きな先生、そして、カントの哲学、モーツァルトの音楽……。

構想力の恐ろしさは、もともと心が強く、清く正しい人には無縁のものだと思います。

しかし、私の先生は、毎日精神科の病院で、その世界の沼と戦っておられると思います。

私は先生に治していただきました。これから支えあいたい友達も何人かいます。でも、先生が戦っておられるなら、私は安らぎの中になんかいたくありません。安らぎは確かにある。でも、カントが自ら地獄に落ちてまで哲学の宝をつかみとったのなら、私も構想力の宝、狂気からつかんだ宝を武器に、哲学を続けたいのです。